



野菜づくりから子育てを考える

園長 太田 伸男

市之瀬幼稚園では、園庭や隣の畑で夏野菜や大根などを育てています。私も結婚して以来、わずかばかりの自宅の裏庭で30年以上野菜を育てています。これまでの経験から、野菜づくりが子育てに通じることが多いことを感じています。

野菜づくりの最初で大事なことは、土作りです。種や苗が育つ環境を豊かに整えておく必要があります。幼稚園では、野菜くずとぼかしを使った「菌ちゃん土づくり」を体験しました。宅地だった自宅の畑も、何年も耕しているうちに黒い畑の土に変わってきました。子育てでも、「家庭や幼稚園での環境づくり」が大事です。基本的な躰は、繰り返し行うことです。



種をまいた後は、芽が出て苗がしっかりするまで水やりが欠かせません。日が当たるようにして、肥料を取られないように雑草を抜きます。また、双葉や本葉が食べられないように、害虫を駆除します。苗が大きくなってきたら、風で倒れないように支柱を立てて支えます。子育てで、「健やかに育つように生活環境を整え、病気を防ぐ」と同じです。



苗が大きくなる頃には、根をしっかり張らせるためにあえて水をやりません。子育てでも、「全て親が手を貸すのではなく、子どもが一人でやれることを増やして」いきます。

野菜の種類が一緒でも、育ち方は一本一本違います。子どもたちの個性が一人一人違うのと同じです。野菜の様子を観察し、大根などの葉が混んでいるときは間引きをします。トマトなどの幹が曲がりそうなときは、ひもで縛って戻します。よい枝や大きい実が残りますが、余分な枝や実を切り落とします。大きな実を付けるためです。子育てでも、「子どもを見守り、困った時に相談に乗って支援する」、「良いことは褒め、間違ったことは叱る」ことと似ています。



自分が育てた野菜を食べると、採れたて新鮮でとてもおいしいです。カレーパーティーで、幼稚園で育てた野菜をカレーに入れたら、野菜が苦手だった子も食べることができました。我が家では、二人の子どもも成人して就職し、自立することができました。ありがたいことで、子育ての苦労が報われた気がします。



野菜づくりは、一年ごとに初めから繰り返すことができます。しかし、子育ては、その子にとっては一回きりの経験です。子育て中の保護者の皆様も時間に追われることが多いかと思いますが、子どもと直接触れ合うことのできる幼稚園時代にこそたくさん関わっていただきたいと思います。そして、楽しんで子育てしてもらえたら、子どもたちも幸せだと思います。